

事業評価シート(令和4年度事業評価用)

番号 1140660 _ 001

【1.基本情報】

事業名	看護師養成所事業					
担当部名	市民病院		担当課名	看護専門学校		
実施方法	直営	補助等の種類		実施主体	岐阜市	
開始・終了年度	昭和	47	年度～	年度	根拠法令・関連計画	保健師助産師看護師法、学校教育法等

【2.事業概要】

目的 (何のためか)	対象に寄り添い、多様な場の状況に合わせた看護を創造できる看護師の育成					
内容 (手段・手法など)	岐阜市立看護専門学校(昭和47年4月開設)(准看護学校から移行) 3年課程、看護学科、入学定員35名、総定員105名 在学者数109名(1年37名、2年37名、3年35名)(令和5年4月現在)					
事業の 対象	何を	看護師に必要な知識及び技術を				
	誰に	本学学生に				
	どのくらい	教育課程97単位 3,000時間(令和3年度入学生まで)112単位 3,060時間(令和4年度入学生から)				
令和4年度からの変更点 (継続事業の場合)	令和4年4月現在在学者数106名(1年37名、2年36名、3年33名) 年間平均105名(退学等異動考慮後) 令和4年度卒業生32名 令和4年度の入学生より第5次カリキュラム導入					

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	令和2年度決算額		令和3年度決算額		令和4年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正職員	105,910	3,259	98,550	3,051	108,978	3,427
パートタイム会計年度任用職員A	0	0	0	0	0	0
パートタイム会計年度任用職員B	0	0	0	0	0	0
計(A)	105,910	3,259	98,550	3,051	108,978	3,427

(2)物にかかるコスト

直接経費【直接事業費】(B)		令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
		22,447	24,209	28,852
直接事業費の主な内訳		令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
項目	奨学費	7,200	7,200	7,600
	修繕費	740	626	892
	光熱水費	2,961	2,601	4,293
減価償却費【施設管理】(C)		令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
		0	0	0
計(D)=B+C		22,447	24,209	28,852

(3)総コスト

総事業費(E)=A+D	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
	128,357	122,759	137,830

【4.収入】

収入内訳	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
国庫支出金	0	0	0
県支出金	0	0	0
市債	0	0	0
使用料・手数料	0	0	0
その他	13,455	12,813	12,602
計(F)	13,455	12,813	12,602

【5.収支】

市負担額一般財源(E-F)	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
	114,902	109,946	125,228

【6.コストバランス】

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
事業受益者	学生	学生	学生
受益者数	103	104	105
受益者負担額(千円)	11,823	12,047	12,542
受益者負担率(%)	9.2%	9.8%	9.1%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	1,115,553	1,057,171	1,192,648

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))

活動指標名	卒業生の人数		単位	人
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
目標値	-	-	-	-
実績値	34	33	33	32

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)

成果指標名	卒業生のうち市民病院への就職者数		単位	人
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
目標値	-	-	-	-
実績値	10	13	13	13
達成状況	—	—	—	—

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 ①目的が市民・社会のニーズに合っているか ②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県) ③類似の事業はないか、あれば当該事業との統廃合はできるか ※【1】【2】から	高	継続的に看護人材を育成し、市民病院及び地域の医療環境の充実に寄与している点で必要性は高い。 市民病院をはじめとした地域医療機関にとって、地域における看護師の安定確保の面から必要である。 類似事業はない。
効率性 ①費用対効果 ②他に効率的な方法はないか (広域・民間活用・市民協働など) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	中	看護師の育成と共に市民病院の人材確保が図られるなどの費用対効果がある。 ない。
有効性 ・期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か ※【2】【7】から	中	毎年30名程度の卒業生を安定的に輩出、うち市民病院への就職者は10～13名である。市民病院と連携し、市民病院へ入職を希望する卒業生の増加を図る。
公平性 ・受益者及び受益者負担は適正か ※【2】【6】【7】から	中	学生から入学金・授業料を得ており適正である。学生の希望を尊重し、就職先や進学等のアドバイスを行っており適正である。
〔総合評価〕 ・拡充：目標を達成しており、良い状態が続いているため、より良くしていく ・現状維持： 様々な要因により、事業担当課の裁量で拡充又は改善することが困難であり、現状のまま事業を継続していく ・改善：目標を達成できておらず、事業の統合や縮小、実施内容の変更など、見直しを図る ・廃止：実施予定期間満了などの理由により、事業を取りやめる	現状維持	看護人材を育成し、市民病院及び地域の医療環境の充実に寄与しており、必要な事業である。